

## えりもしやくなげ



発行者 教育長 川上松美 代01466-2-2525  
<http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html>

### 1月29日 進路講話 4名の先輩が語る

齊藤凧咲さん 渋谷瑠香さん  
伊吹玲愛さん 平野詩織さん

※前号に掲載できなかった伊吹さん、  
平野さんの講話内容の掲載です。

えりも高校 3年 伊吹玲愛さん

○えりも町役場 内定

私は、えりも町役場に内定をもらった、えりも高校3年の伊吹玲愛です。

私は高校2年生の秋頃に公務員になることを目標にしてきました。そのために、講習や家で時間を使い、勉強に取り組んできました。私は美術部に所属していたので、大会に出すための絵を描きつつ公務員に向けて勉強しなければならず、部活との両立が大変でした。私は元々勉強する習慣がなくテスト週間しか勉強していませんでした。なので将来を考え勉強を

習慣化することが大切だと思いました。

次に公務員試験についてです。試験の内容は幅広く、判断推理や数的処理といった数学系が主に出題されます。それ以外では、国語、理科、英語、政治経済なども出題され、試験内容はとても幅広いです。過去問やワークを解いて問題の出され方や、どの科目が出題されやすいのか傾向を分析することが大切です。また、面接で練習で苦労したことは公務員特有の質問をされるので、どう答えるか苦労しました。公務員試験と言っても、自分の目指している就職先は普通の公務員試験と違う可能性もあるので気を付けてください。

公務員試験は出題範囲が幅広く、試験当日に初めてみる問題もたくさんあります。ですが、全く違う問題ではなく、似ているけれど違う問題が出てきますので、いろんなワークを解いて少しでも当日動揺しないように努力することが大切だと思います。

試験に向けて苦労したことは勉強です。習慣化されていないときに、いきなり勉強量を増やすと集中力も続かないしやる気がでません。なので勉強を五分でもいいから毎日してみてください。そうしたら、私のように初めから勉強でつまづくことはないと思います。

私は高校2年生のとき、将来やりたいこともなく、周りが進路を決めている中ずっと悩んでいました。高校一年生の時からある程度どういう系の仕事につきたいかを考えておくことが

大切です。私は最後まで悩み、みんなと遅れをとったことをとても後悔しています。何事も将来のことを考え行動することが大切です。

これらの経験を通して、私は将来のことを考えて行動することの大切さを学びました。皆さんも高校生になったら将来のことを今よりもっと聞かれる回数が増えます。聞かれても分からなく、もしかしたら面倒くさいと感じてしまうかもしれません。ですが、いろんな大人の人達や友達の話聞いてみてください。将来やりたい仕事が見つかるかもしれません。

最後になりますが、将来公務員を目指している方や将来やりたいことがない人は参考にさせていただけたら幸いです。



えりも高校 3年 平野詩織さん

○日本医療大学保健医療学部 合格

私は、えりも高校3年の平野詩織です。私はこのたび、日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科・理学療法専攻に合格しました。今日は、私が大学に合格するまでの経験を振

り返り、「進路を考えるうえで大切だと思った3つのこと」についてお話ししたいと思います。

1つ目は、「自分の意見が伝わるまで話すこと、親の意見も聞くこと」です。なぜなら、親は私たちより長く生きていて、将来のことを考えたアドバイスをしてくれるからです。私は最初、大学でなく専門学校に進みたいと考えていました。理由は、専門学校では専門の勉強が中心なので、苦手な算数・数学や英語をあまり勉強しなくてもよいと思ったからです。しかし、親は「大学に行ってほしい」という考えでした。そのため、意見が合わず、よく喧嘩をしていました。私は、「どうせ言っても分かってもらえない」と思い、進路の話をしなくなっていました。ですが、親が大学を勧めていた理由は、「大学卒業の方が就職の幅が広がること」「給料が高くなる可能性があること」「専門学校に比べて生徒の人数が多く、自分の居場所を見つけやすいこと」など、入学から卒業後や就職後の将来まで考えてのことでした。この経験から、自分の考えはあきらめずに伝えること、そして、自分と違う意見でも、まずは一度聞くことが大切だと感じました。

2つ目は、「将来やりたい仕事は、できるだけ早く決めた方がよい」ということです。理由は、「今、自分が何をすべきか」が分かりやすくなるからです。例えば、「速く走れるようになりたい」と思ったら、足をしっかり上げる、腕を大きく振る、ジャンプ力をつけるなど、やるべきことが見えてきます。このように、目標を決めることで、行動がはっきりして、やる気も続きやすくなると思います。私は中学2年生の秋ごろに、やりたい仕事を決めました。でも、

今まだ決まっていない人がいても、全く問題ありません。世の中には、約1万8千種類以上の仕事があると言われていています。だからこそ、いろいろな仕事について調べてみてください。仕事内容や資格、給料など、きっかけは何でもいいです。そして、将来やりたい仕事が見つかったときに困らないよう、今の勉強を大切にしてください。「何のために勉強するの?」と思うこともあると思いますが、勉強は自分の将来の選択肢を広げてくれます。

3つ目は、「メンタルを強くすること、そして、保ち方を知ること」です。理由は、どんな環境に行っても、ある程度は乗り越えられる力になると思うからです。私は以前、置戸高校に通っていました。そこは介護福祉士の資格が取れる高校で、将来に役立つと思い進学しました。しかし、高校1年生の頃、友人関係などで悩み、体調を崩して学校に通えなくなってしまいました。その後、えりも高校に転学しました。今の私のメンタルが100%中60%だとしたら、当時は10%くらいだったと思います。もし、今の心の強さがあつたら、違う結果になっていたかもしれません。この経験から、メンタルは強い方がよく、その保ち方を知っておくことは、とても大切だと感じました。

私は「自分の意見が伝わるまで話すこと、親の意見も聞くこと」「将来やりたい仕事を考えること」「メンタルを強くすること」、この3つ

を、進路を決めるとき、大切にしてほしいと思います。自分の将来は、誰かに決めてもらうものではなく、自分で決めるからこそ価値があります。たくさん悩んで、考えて、後悔のない進路を選んでください。応援しています。



町内の6年生29名が真剣に聞き入ったり、メモを取って、高校生の進路決定までの話を聞きました。

### なぜ、このような取組を行っているか

- ・自らの人生を歩むに当たり、目的をもって、次の生活に取り組めるよう、先輩の経験を直接聞き、考えを深めるためのものです。
- ・「よく、進学しても、就職しても、粘り強く続けられないケースが多い」と言われます。そのため、小学6年生から、「生き方・在り方を考える」機会をもつことは、今日の社会においてとりわけ大切なことであります。
- ・小学6年生から聞くことによって、中学卒業まで、少なくとも4回話を聞くことができます。

○令和7年度の進路講話は、1月29日に行われました。教育委員会だより155号と本号で、この3月に卒業した、えりも高校3年の斉藤風咲さん、渋谷瑠香さん、伊吹玲愛さん、平野詩織さんに講話をしていただきました。心から感謝申し上げますとともに、卒業後の大学進学や就職先で、明るく元気で有意義な生活ができることを心から願っております。